

令和 4 年度吹田市胃がん検診(胃内視鏡検査)実施状況

【用語について】

- ・初回/非初回：過去 3 年度以内に、吹田市胃がん検診の胃部エックス線検査及び胃内視鏡検査の検診受診歴がある場合は「非初回」、受診歴がない場合は「初回」に分類

【受診率の算出方法】

全国、大阪府と比較をするため、国が示す方法に基づき算出。

胃がん検診においては、50 歳～69 歳が対象。

- ・対象者数 = 当該市町村に居住地を有する各がん検診の対象年齢の全住民
- ・受診率 = $(\text{前年度の受診者数} + \text{当該年度の受診者数}) - (\text{前年度及び当該年度における 2 年連続受診者数}) / (\text{当該年度の対象者数}) \times 100$ ※昨年度と受診率の算定方法が異なります。

【要精密検査者について】(不完全実施は除く)

- ・要精密検査者：胃内視鏡検査は、①内視鏡検診時に生検を受診した者と、②内視鏡検診時には生検を受診しなかったが、二次読影判定で要再検査(B-1,D)となった者。
- ・検診時生検受診者：胃内視鏡検査時に生検を受診した者
- ・検診時生検受診のうち要再検査者数：二次読影判定で要再検査(B-3,D)となった者
- ・要精密検査検診時生検未実施：胃内視鏡検査時に生検を受診しなかったが、二次読影判定で要再検査(B-1,D)となった者
- ・精密検査受診者：検診時の生検の結果の報告があった者、精密検査実施機関から再検査の結果の報告があった者並びに再検査受診者から受診日、実施機関、検査法及び検査結果の報告があった者
- ・胃がんのうち早期がん：早期がん(がんの浸潤が粘膜内か粘膜下層に留まるもの。リンパ節転移の有無は問わない)であった者。
- ・胃がんの早期がんのうち粘膜内がん：粘膜内がん(がんの浸潤が粘膜内に留まるもの)であった者

【プロセス指標※の算出方法】

- ・要精検率 = $\text{要精検者数} / \text{受診者数} \times 100$
- ・精検受診率 = $\text{精検受診者数} / \text{要精検者数} \times 100$
- ・早期がん割合 = $\text{早期がん} / \text{がん発見数} \times 100$
- ・がん発見率 = $\text{がん発見数} / \text{受診者数} \times 100$
- ・陽性反応適中度 = $\text{がん発見数} / \text{要精検者数} \times 100$

※プロセス指標とは…がん検診精度管理指標のひとつ。がん検診事業は大まかに受診者の募集、スクリーニング、精密検査への誘導、精密検査、事業評価のプロセスに分かれているが、プロセス指標は各プロセスが適切に行われているかを評価するための指標。厚労省は平成 20 年度に各プロセス指標値の基準値(許容値・目標値)を決定し公表している。

1 受診者数

(1) 年次別胃がん(胃内視鏡検査)検診受診者数及び受診率

表 1-1 令和 2 年度～令和 4 年度 (4～9 月) 胃がん(胃内視鏡検査)検診実績(50 歳～69 歳)

50歳～69歳	令和2年度			令和3年度			令和4年度 (4～9月)		
	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計
対象者数	89,195			91,592					
受診者数	721	814	1,535	1,095	648	1,743	454	291	745
受診率	0.7%	1.9%	2.6%	1.8%	1.2%	3.0%			
初回受診者数	512	210	722	743	160	903	221	82	303
初回の割合	71.0%	25.8%	47.0%	67.9%	24.7%	51.8%	48.7%	28.2%	40.7%

参考：令和 2 年度受診率比較 (50～69 歳) 出典：1)令和 2 年度地域保健・健康増進事業報告 2)大阪府速報値(令和 3 年 7 月時点)

	全国 ¹⁾	大阪府 ²⁾	吹田市
受診率	7.0%	4.2%	2.6%

表 1-2 令和 2 年度～令和 4 年度 (4～9 月) 胃がん検診(胃内視鏡検査)実績 (全年齢)

全年齢	令和2年度			令和3年度			令和4年度 (4～9月)		
	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計	内視鏡	エックス線	合計
受診者数	1,033	1,342	2,375	1,560	1,080	2,640	673	498	1,171
初回受診者数	701	280	981	1,038	209	1,247	307	110	417
初回の割合	67.9%	20.9%	41.3%	66.5%	19.4%	47.2%	45.6%	22.1%	35.6%

【結果】

・令和 3 年度の 50～69 歳の受診率は胃内視鏡検査・エックス線検診を合わせると 3.00%であった。令和 2 年度と比較すると、0.36 ポイント上がっており、全年齢では 5.9 ポイント上昇している。

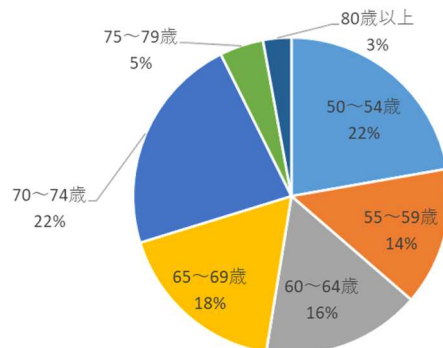
・全国・大阪府と比較すると受診率は低い。

・令和 2 年度、内視鏡は約 7 割が初回受診者であったが、令和 3 年度は 67.9%と少し下がっている。今後も初回受診者は年々減っていくと考えられる。

・令和 2 年 1 月(令和元年度)より胃内視鏡検査を開始し、令和 2 年度はエックス線の受診者が多かったが、令和 3 年度は内視鏡検査受診者が上回っている。

表 1-3 令和 3 年度胃がん検診(胃内視鏡検査)性別年齢階級別受診者数

年齢階級	受診者数(人)		
	男性	女性	合計
50～54歳	92	255	347
55～59歳	75	145	220
60～64歳	84	169	253
65～69歳	107	169	276
70～74歳	156	193	349
75～79歳	33	37	70
80歳以上	24	21	45
合計	571	989	1,560

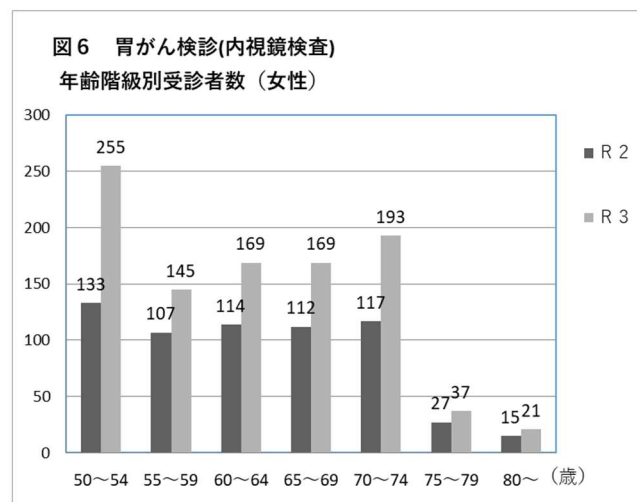
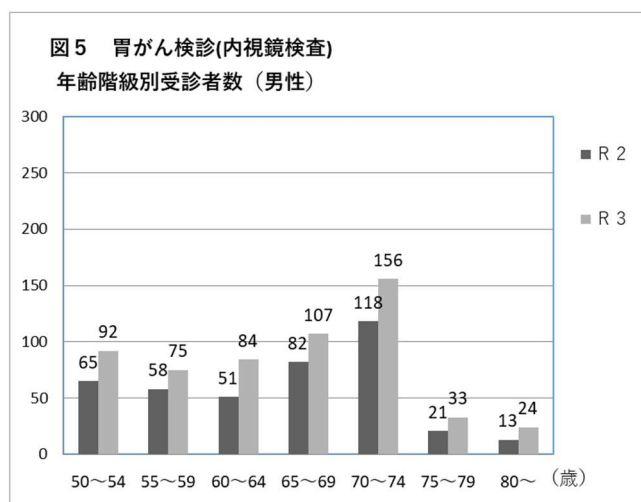
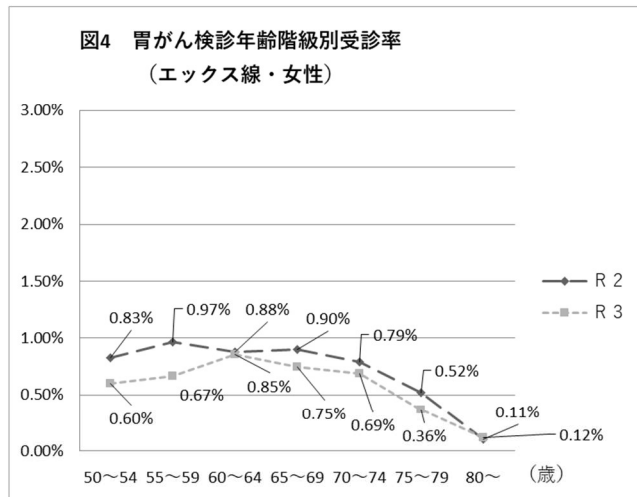
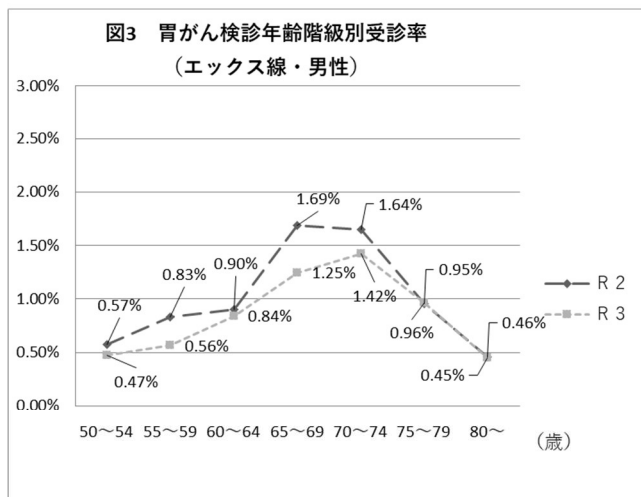
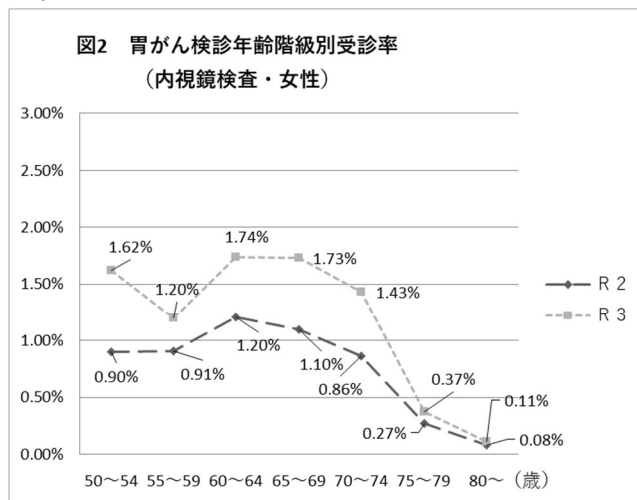
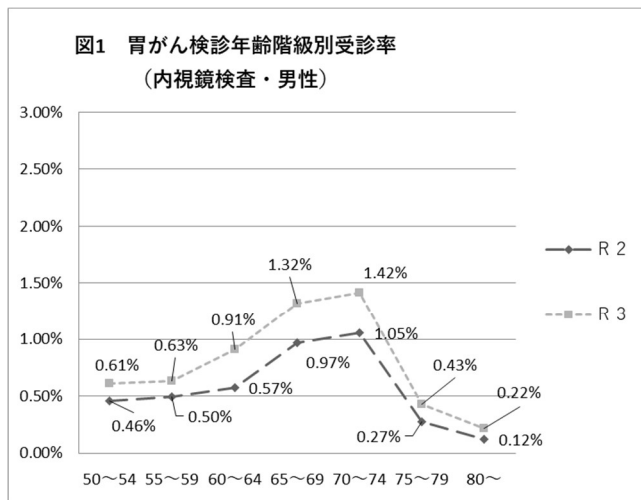


【結果】

・令和 3 年度胃内視鏡検査での男女別受診者数を比較すると、男性は 70～74 歳が 156 人と最も多く、次いで 65～69 歳が多い。女性は、50～54 歳が 255 人と最も多く、次いで 70～74 歳が多い。

・女性 989 人、男性 571 人で、女性は男性の約 1.7 倍多く受診している。

(2) 胃がん検診男女別、内視鏡・エックス線別年齢階級別受診率（受診率は、エックス線と内視鏡検査を単純に比較するため、当該年度の対象者で算出したものとする）



【結果】

・年代別受診率は、男性は、令和 3 年度は内視鏡検査・エックス線共に 70~74 歳の受診率が一番高く次いで内視鏡検査・エックス線 65~69 歳が多い。女性は、令和 3 年度は内視鏡検査は 60~64 歳、エックス線は 60~64 歳の受診率が一番高く、次いで 65~69 歳が高い(内視鏡検査・エックス線共に)。受診率は、男女ともに内視鏡は令和 2 年度より 3 年度が増加しており、エックス線では減少している。

- ・内視鏡検査の受診者数は、男女共に、他の年代に比べて 75 歳以降の受診者が極端に減っている。
- ・内視鏡検査の受診者数では、全年齢階級にて令和 2 年度より令和 3 年度の方が増加している。

2 生検

表 2-1 令和 3 年度胃がん検診(胃内視鏡検査)生検実施者における生検

生検結果	Group1	Group2	Group3	Group4	Group5	X	その他(食道)	その他(十二指腸)	総計	生検率
人数	189	3	0	1	3	6	9	5	216	13.8%

表 2-2 令和 4 年度(4~9 月)胃がん検診(胃内視鏡検査)生検実施者における生検

生検結果	Group1	Group2	Group3	Group4	Group5	X	その他(食道)	総計	生検率
人数	56	1	3	0	1	0	1	62	5.3%

Group 1 : 正常組織および非主要性病変	Group 2 : 腫瘍(線種または癌)か非腫瘍性か判断の困難な病変
Group 3 : 線種	Group 4 : 所要と判定される病変のうち、癌が疑われる病変
Group 5 : 癌	Group X : 生検組織診断ができない不適材料

【結果】

- ・生検率は令和 3 年度 13.8%・令和 4 年度(4~9 月)5.3%である。

3 読影判定

表 3-1 令和 3 年度胃がん検診(胃内視鏡検査)一次読影判定及び二次読影判定

		二次						総計
		A	B-1	B-2	B-3	C	D	
一 次	A	1,330	4	0	0	2	3	1,339
	B	15	1	163	1	2	0	182
	C	11	0	0	0	24	0	35
総計		1,356	5	163	1	28	3	1,556

表 3-2 令和 4 年度(4~9 月)胃がん検診(胃内視鏡検査)一次読影判定及び二次読影判定

		二次						総計
		A	B-1	B-2	B-3	C	D	
一 次	A	607	0	0	0	0	1	608
	B	4	0	48	0	0	0	52
	C	1	0	1	0	10	0	12
総計		612	0	49	0	10	1	672

A 異常なし B 胃がんを疑う所見あり

B-1 当日生検なし、胃がんを疑う所見あり B-2 当日生検あり、生検部位に胃がんを疑う所見あり

B-3 当日生検あり、生検部位以外に胃がんを疑う所見あり

C 胃がん以外の悪性疾患またはその疑い D 読影部位が不足しているため判定不能

【結果】

- ・令和 3 年度において、D 判定(読影部位が不足しているため判定不能)が 3 人、令和 4 年度では 1 人。

4 要精検者について

表4 年次別胃がん検診(胃内視鏡検査・エックス線)要精検者内訳

	令和2年度					令和3年度					令和4年度(4～9月)					
	胃内視鏡検査			エックス線	合計	胃内視鏡検査			エックス線	合計	胃内視鏡検査			エックス線	合計	
	生検	生検未実施	計			生検	生検未実施	計			生検	生検未実施	計			
受診者数	1,033			1,342	2,375	1,560			1,080	2,640	673			498	1,171	
要精検者数	116	7	123	97	220	216	7	223	74	297	62	1	63	28	91	
精検受診者数	116	4	120	90	210	215	4	219	65	284	55	0	55	20	75	
要精検率	11.2%	0.7%	11.9%	7.2%	9.3%	13.8%	0.4%	14.3%	6.9%	11.3%	9.2%	0.1%	9.4%	5.6%	7.8%	
精検受診率	100.0%	57.1%	97.6%	92.8%	95.5%	99.5%	57.1%	98.2%	87.8%	95.6%	88.7%	0.0%	87.3%	71.4%	82.4%	
精 検 結 果 内 訳 (人)	異常なし	1	1	2	2	4	16	2	18	8	26	6	0	6	3	9
	胃がん	3	0	3	2	5	3	1	4	1	5	1	0	1	0	1
	胃がん疑い	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃がん以外の疾患	112	3	115	86	201	196	1	197	56	253	48	0	48	17	65
	胃ポリープ	19	0	19	13	32	36	0	36	7	43	4	0	4	7	11
	胃・十二指腸潰瘍(癒痕含む)	13	0	13	4	17	16	0	16	6	22	5	0	5	0	5
	胃びらん	38	0	38	1	39	68	1	69	0	69	16	0	16	0	16
	胃炎	26	2	28	52	80	51	0	51	37	88	15	0	15	10	25
その他	16	1	17	16	33	25	0	25	6	31	8	0	8	0	8	
未受診/未把握	0	3	3	7	10	1	3	4	9	13	7	1	8	8	16	
がん発見率	0.29%	0.00%	0.29%	0.15%	0.21%	0.19%	0.06%	0.26%	0.09%	0.19%	0.15%	0.00%	0.15%	0.00%	0.09%	
陽性反応適中度	2.59%	0.00%	2.44%	2.06%	2.27%	1.39%	14.29%	1.79%	1.35%	1.68%	1.61%	0.00%	1.59%	0.00%	1.10%	

[参考]令和元年度(全年齢) ※吹田市の胃内視鏡検査は、令和2年1～3月の3か月間

全年齢	大阪府			吹田市		
	内視鏡	エックス線	総計	内視鏡	エックス線	総計
要精検率	13.2%	5.8%	7.3%	15.7%	6.0%	6.3%
精検受診率	98.6%	83.5%	89.0%	94.4%	89.7%	90.1%
がん発見率	0.53%	0.13%	0.21%	0.00%	0.13%	0.13%
陽性反応適中度	4.0%	2.2%	2.9%	0.00%	2.17%	1.98%

参考)胃エックス線検診の許容値

要精検率	11.0%以下
精検受診率	70%以上
がん発見率	0.11%以上
陽性反応適中度	1.0%以上

【結果】

・胃内視鏡検査とエックス線を比較したところ、令和2～4年度全てで要精検率・精検受診率は胃内視鏡検査の方が高い。

・がん発見率・陽性反応適中度も令和2～4年度全てで、胃内視鏡検査の方が高い。

5 胃がんであったケースの詳細

令和3年4月請求～令和4年3月請求受診者のうち、4名が「胃がん」と診断されている。

個人情報保護の観点より、詳細な内容は非公開とします。

6 検診実施医療機関別プロセス指標

表8 令和2年度・令和3年度胃がん検診(胃内視鏡検査)実施医療機関別プロセス指標

個人情報保護の観点より、詳細な内容は非公開とします。